公益社団法人青少年健康センター

若年者自殺予防のための「クリニック絆」報告書（2013 年度報告）

青少年健康センターは、１９８５年に創設され、ひきこもりなど思春期問題を抱える若者たちのために、デイケアを始めとする支援活動を継続してきたが、2012 年度からは、電話相談「クリニック絆」を開設した。最近は自殺者数の減少にもかかわらず、若い世代の自殺は増加傾向にあることを憂えたからである。

相談傾向・自殺を訴えた事例

相談の中で圧倒的に多いのは、精神疾患にかかわるもので８割前後を占め、また当センターの主な事業がひきこもり支援であるので、ひきこもり問題が１割強あった。自殺念慮は 1 割弱であったが、自殺とは訴えなかったものの、危機的な事例も見受けられた。

７割ほどが治療を受けた経験があるか、現在治療中であった。不明を含む未治療群は 3 割弱であった。

〇30 代　男性：「死にたい」小学生のころ、先生にバカにされ、中学 2 年の時に教師から虐待を受けた。高校では先生、生徒からいじめられて中退、家庭では今引きこもっている。中学生の時に父が「死ねばいい」というのを聞いた。最近は部屋に来て、「食わせてやっている」といった言葉を浴びせるなど、死にたいという気持ちを分かってくれない。

〇男性　30 代　この 2 月に原因不明の感染症に罹患した。
現在は精神科にかかり、安定剤を投与してもらっている。感染症はめずらしい難病で、苦しんでいる。死にたいので、苦しまないで死ぬ方法を知りたい。

〇女性　20 代　１０年前からうつ病で治らない。1 年前からすぐ死にたくなって、自殺未遂を繰り返す。今回も未遂をして退院したばかり。

症状は寝てばかりで、何もできない。たまに動悸があり手足がかってに動くことがある。処方されている薬はセパゾン、ハルシオン、ベンザリン等 7 種類。

医師の対応：鎮静の薬が多いと思われる。投薬の種類が多いですね。主治医に相談するか、信頼できる病院でセカンド・オピニオンを聞いたらいかが。